

小學修身鑑

平井參編著

卷五

館籍出會育教本日大			
一	一	一	一
八	四	一	九
册	號	架	函

60
547
一
四

K120.1
5

明治十九年十二月廿五日内務省發行

小學修身鑑卷の五

平井參編次



朋友

如かざるものを友と

するふとなれ

○獨り學んで、友を多れば、孤

論語

禮記

小學修身鑑 卷之五

大學修身錄 卷之三 金剛經

易經

陋よして、聞く事とすくなし。

○君子もつて、朋友講習す。

程子、語

○朋友講習すれば、たがひよ、

相益するなり。

論語

○君子ハ、文をもつて、友を會

し、友を以て、仁をだすく。

陵餘叢考

○朱よ、ちかづくものハ、赤く、

墨よ、近づく者ハ、黒し。

翁問答

○朋友ハ、たがひよ、信を以て、

相交る道とす、信ハ、偽なく、義

理よ、かなふ徳なり。

初學訓

○朋友ハ、信を厚くし、たがひ

ふ善を勧め、惡を戒む、是れ、朋
友の道なり、

知恥 重名

知恥、重名といふ、おのれのぐわいぶんの
ほしくならぬやうよするおとなり、お
れらハ人の、たこなひよ、たきてい、もつ
とも、かくべららざるものなり、人を
おぞむき人のものをぬすみ、などして、お
のきのぐわいぶんを、ほしくするハ、み

な恥をしり、名を重んぜぬより、おふる
おとなり、

中庸

省心雜言

莊子

○恥を知るハ、勇まちかし、
○廉恥ハ、己を行ふの、先務な
り、

○衆人ハ、利を、おもんず、廉士
ハ、名を、重んず、

紳瑜

○名を成すハ、毎ヨ、窮苦の日
ニ在リ、事を敗るハ、多く、得意
の時ニよる、

賢文書

○鷹ハ、過ぎて、聲をとゞめ、人
ハ、去りて、名を留む、

梁王彦章ノ語

○豹ハ、死して、皮をとゞ、兔、人

歐陽廬陵ノ語

ハ、死して、名を留む、
○君子の、をしむ、とあるのも
のハ、名節なり、

仁義

仁といハ、以つくしみめぐむとよて、義
といハ、たふなふて、おれを宜しくする
となり、たふなふて、おれを宜しくする
といハ、たとへバ、おのれの弟を、いつくし

韓退之ノ語

むと、他人をいつくしむとの間、わかちを、おくがごとし、

○ひろく、愛する、おれを、仁と以ふ、

同

○行ふて、之を、宜しくする、おれを、義といふ、

荀子

○仁の在る所、貧窮なし、仁の

論語

なき所、富貴なし、

○君子ハ、食を終るの間も、仁よ、たがふおとなし、

薛文清ノ語

○事、義よかなへば、大なりと雖懼れず、

同

○義よ合まざれば、小なりと

五

孟子 卷之六 告子上 第六

傳家寶

董仲舒
ノ語

言志堂
錄

雖レまさよ、謹むべし、

○物、義よレあらざれば、取るレこと、なレあれ、

○その義を、正くして、其利を、謀らず、

○凡そ、事をなすよレい、まさよ、

孟子

程子ノ
語

知仁親
王ノ遺
訓

先づ、其義如何を、謀るべし、

○仁ハ、人の安宅なり、義ハ、人の正路なり、

○人かならず、仁義の心ありて、然して後、仁義の氣あり、

○仁義内よ、ある人ハ、よく榮

六

う、

孟子

○未だ仁よして、その親を遺る者、阿らび、

同

○未だ義ふして、其君を、後よする者、あらず、

道徳

道といふ人々のつねよふみだるなふべき道すぢなり、徳といふよふなをなむをなむちたのづと、おのれよ得たる、たふなひなり、道と徳と阿れば、人おれをたつとぶおれをたれば、人おれを以やしむ、

論語

○阿したよ、道を聞ぢバ、夕よ、死すとも、可なり、

禮記

○君子ハ、その、道を得ること

ハ、其の道を得ること

董仲舒ノ語

を、樂む

○その道を明かよして、其功を計らず

慎志録

○道よ、志す者ハ、須らく、誠敬を以て、其志を守るべし

南史

○君子ハ、身を正うして、以て、

大學

道を明かよし、己を直くして、以て、義を行ふ

○富ハ、屋をうる不し、徳ハ、身を潤す

易經

○忠信ハ、徳を進むる、由るなり

易經傳身金 卷之三 八 易經傳身金

易經

○君子以て、多く、前言往行を識りて、其徳を畜ふ

賢文書

○徳才よ勝てば、君子たり、木徳ふ勝てば、小人たり

易經

○徳薄くして、位尊く、智小にして、謀大なれば、禍なき者へ

列女傳

すくなし

○徳ハ、不祥よ勝ち、仁ハ、百禍を除く

自省 自反

自省といふ、じぶんよ、じぶんをかへりみるふとよて、自反といふ、じぶんよ、じぶんをかへそうして、もとむるふとなり、自省自反の、まなをち人のふりをみて、わ

九 帛書月成

論語

賢を見てハ、ひとしおらん
未とを思ふ、

同

○不賢を見てハ、内よみづの

がふりをなすふとまりきのふをし
たるれおなひハ、あふよく、うへりみふ
ひる、れおなひたる、おといふる、よく、か
んがへまふ、かやうよすれ、じぶんの
阿やまち、れたのづ、うらふく、じぶんよ
あかるものなり、

同

ら、省みる、

○われ、日よ、三たび、わが身を、
省みる、

周武王
ノ鑑録

○なんぢの、前を見て、爾の後、
を、慮れ、

程漢舒
筆記

○他人の、錯くと、未ろを、看て

薛文清ノ語

ハ、時々、當ト、内ニ、省ミ、みるべし、
○己ノの過ヲを、省ミ、みるニ、暇ナ、何レぞ、人ノの過ヲを、責ム、むるニ、暇ナ、
何レらんや、

徳川家康ノ遺訓

○心ニ、望ミ、お、おれバ、困窮シ、た、
る時ヲを、思ヒ、ひ、出サ、すべし、

論語

○君子ハ、おれヲを、己ニ、もとむ、
小人ハ、これヲを、人ニ、もとむ、

王祖ノ語

○人ハ、或ハ、己ヲを、そシ、る、當ト、退キ、
きて、之ヲを、身ニ、もとむ、
○外面ノ、事ヲ、知ラ、ざるヲを、患ヘ、

程子ノ語

○外面ノ、事ヲ、知ラ、ざるヲを、患ヘ、
ず、たゞ、自己ヲを、見ガ、ざるヲを、患ヘ、

十一

朱子語

○人ハ人を見る大と常ニ明
ニして己を見ること常ニ暗
シ、

勸善 懲惡

勸善といふ善き道へ、よくめいれる大と
よて懲惡といふ、しきたふをひをこら
し、よましめる大となり、人ハ善行をみ
て、よきたこをひをなせ、惡事をきよてば

賢文書

同

實語教

しきことをつゝしめ

○善人ハ則チ、れを親しみ近
づもよ、

○惡人ハ則チ、之を遠ざけ、避
ふ、

○善を見てハ、速ニ行け、

實語教

同

同

國語

漢書

○ 惡を見てハ、忽ち避るふ、
 ○ 惡を好むものハ、禍を招き、
 ○ 善を修むる者ハ、福を蒙る、
 ○ 善より従ふハ、登るが如く、惡
 より従ふハ、崩るゝが如し、

○ 善を爲すものハ、天むくゆ

るふ、福を以てす、

同

○ 非を爲す者ハ、天報あるよ、
 殃を以てす、

晉書

○ 善を積むと、三年なるも、
 之を知るもの、すくなし、

同

○ 惡を爲すと、一日なれば、

十三

金瓶梅

天下よ聞也、

五帝訓

○善ふ、ならへば、日々よ、樂しむ、

同

○惡よ、あらへば、日々よ、苦しむ、

漢昭烈帝之遺訓

○惡ハ、小なりとも、するはと、

なかれ、

同

○善ハ、小なりとも、爲ざること、勿れ、

賈誼新書

○善ハ、小よして、益をなしと、以ふべからず、

同

○不善ハ、小よして、傷なしと、

十四

邵康節
ノ語

以ふべからば

○賢よ、親しむことハ芝蘭よ、

就くが如くす、

○悪を避くるまといハ蛇蝎を、

畏るゝが如くす、

○善を爲すよハ、悪を捨つる

同

言
省心雜

心相編

ふ如らず

○その善を知りて、これを守

れバ、錦上よ、花を添ふ、

○其悪を知りて、爲されど、

禍轉じて、福となる、

防微

同

防微といすおしのうちよふせぎとなむるまとなり千丈のつみも有りあなりくづれくわじもせんおりのひよりおまるすおしのおともづしめふわづらのまともたまたるな

五代史

○禍患ハ常ニ忽微ニ積み智勇ハ多く溺る所ニ因る

後漢書

○患ハ忽ニする所より生じ

堯戒

禍ハ微細よりおまる

○人皆小害を軽んじ微事を易りて以て悔むるまると多し

胡致堂

○治をむかるものハ未然を憂ふ

薛文清

○よく小物をつとむるハ學

皇朝文獻通考 卷之五 法

薛文清
ノ語

を爲すの切要なり、

○至微至易なるものと雖庄み
なまさまよ、慎重を以て、去れを
處すべし、

三略記

○小惡止まざるときハ、大惡
成る、

眞西山
ノ語

○患トハ、つねよ、照察の、及むざ
る、と去れよ、伏す、

同

○過チハ、常よ、思慮の、周からざ
る所より、生ず、

初學知
要

○徳を、修むるものハ、細行を、
つゝしむ、

書經

○細行をつゝしまざれば終ヒふ、大徳を累す、

同

○山をつくる木と、九仞なれども、功一簣よかく、

堯戒

○人山ふつまづく木と、なくして、卻て埴よ躓く、

韓非子

○千丈の堤も、螻蟻の穴をもつて、潰ゆ、

易經

○差ふこと、若し、毫釐なれども、繆るふ、千里を以てす、

警言戒

警戒といひ、いましむる事となり、人ハつねよ、いましめの事なるなかるべから

曾子といへる、以ふしへのひとの、おとむおれを、いましめよ、こまを、いましめよ、なんぢよ、いでたるもの、いまた、なんぢよ、かへるものなり、と、あり、

楠正成ノ壁書

○遊も、度かさなれば、樂し、あらば、

徳川光圀ノ遺訓

○苦ハ、樂のたね、樂ハ、苦の種と、知るべし、

賢文書

○溫柔ハ、終よ、己よ、益、何り、強暴ハ、かならず、災を、まねく、

大和俗訓

○人の過ハ、吾心よ、之を知るも、みだりよ、口よ、出すべからば、

許魯齋語錄

○凡そ、朋儕の中よ、在りてハ、

切よ、自満を、以ましむ。

初學訓

○をじめよ、快き處とハ、終よハ、必ず禍となる。

願體集

○失意の人よ、對してハ、得意の事を、談せば、

同

○得意の日よ、處きてハ、失意

の時を、忘るゝ處と、勿れ。

朱子治家格言

○人、喜慶あるよ、妬忌の心を、生ずべからば、

同

○人、禍患あるよ、喜幸の心を、生ずべからず、

養生

マルチ
ンダル
ノ語

大
公
金
匱

養生といふ、攝生ともいひ、衛生ともいふ
ての、みくひをづゝし、みおきふしをさ
だめからだをうんどうして、ながいき
をするのみちなり、何さねと、ひるねい、
養生よ、害あり酒と、烟草い、健康を、こ
なふ、

○疾ハ、多く、養生法を、忽カクよし
て、守らざるより、おさる、

○日よ、一日を、つゝしむ、壽よ

善
誘
文

同

して、終よ、殃ヤクな
し、

○心よ、快き、六

と、過ぐれば、必

ず、殃ヤクをなす、

○一時意よ、快

学校の生徒
遊歩場よ
於て運動
する圖



小學修身金 卷之三

三十一 常月

金瓶梅詞話 卷之五

きふと過ぐれば、身をそふなふ、

邵子ノ語

○その病後よく、薬を服せんよりハ、病前能く、自ら防がんとむ、しかず、

稽康ノ養生論

○六れを守ると、一をもつて

言意録

し之を養ふよ、和を以てす、

○病を、病なきの時よ、慎めば、病なし、

同

○患を、患なきの日よ、慮れば、患なし、

大和俗訓

○朝むやく、起くるハ、家の榮

三十二

大和俗訓

ある兆なり、
○たそく、起くるハ家の衰ふ
る基なり、

小學修身鑑卷の五終

明治十九年七月十日版權免許 價七錢

編者

東京府士族

平井三郎

本所區本所緑町三丁目十九番地

出版人

東京府平民

鹿島長二

日本橋區箱崎町二丁目十八番地

東京馬喰町二丁目一番地

石川治兵衛

千葉本町壹丁目四番地

石川代理店立真舎

福島縣福島南裏一丁目

石川支店

發行書肆

小學修身鑑

平井參編著

卷六

館藏書會育教本日大			
一	一	一	一
八	四	一	九
册	號	架	函

7.60	
547	四

K120.1
6